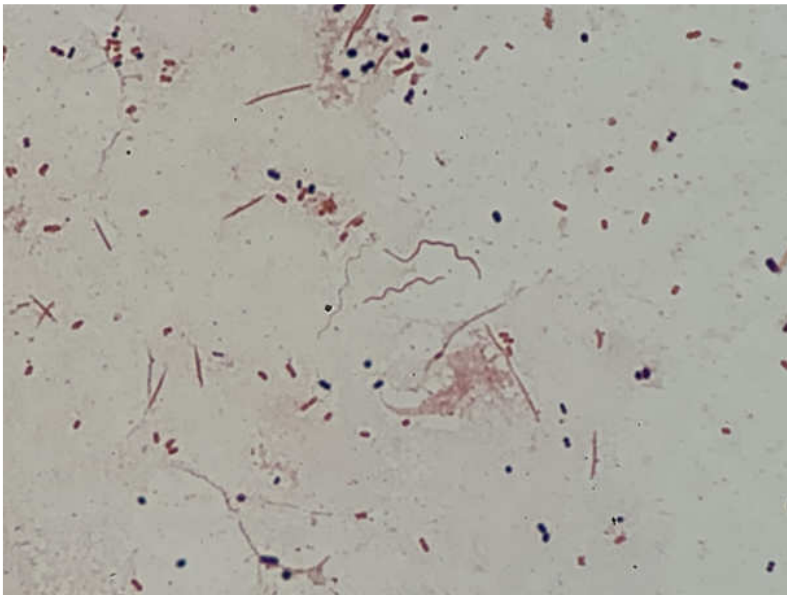


塗抹・顕微鏡検査でワンサンアンギーナを確認

30歳男性 咽頭粘液 咽頭痛有り



グラム染色所見 (×1000)

キャンピロバクターが大きくなった螺旋桿菌が多数見えますので、細菌検査を始めて間もない方が見るとびっくりする場合があります。左の写真は、ワンサンアンギーナ (Vincent's angina) *Spirochata* (*Treponema vincentii*) と嫌気性菌で紡錘状桿菌である *Fusobacterium* との混合感染による扁桃の潰瘍性疾患の咽頭粘液のグラム染色像となる。

Spirochata、*Fusobacterium* は共に正常口腔内にも存在し、通常は病原性を持たないが、粘膜の損傷、健康状態不良、栄養不足、口腔内不衛生などが誘因となり発症する、日和見感染症の一つである。